

## ジャンルにとらわれない 声楽家

毎年恒例、フレンズ企画「クリスマスコンサ  
ート」のお知らせです。  
今年はずらり歌手久保田陽子さん  
をお迎えすることになりました。

ジャンルにとらわれない選曲が特徴の久  
保田さんが、何を歌うかは当日のお楽しみ  
です。

### 久保田 陽子

### ジャパニーズクリスマス

### コンサート &

### ティーパーティー

フレンズ企画  
Part.39



今からカレンダーに  
チェックをお忘れなく!

12月2日  
日曜日

14時 開演 (13時30分開場)

全席自由  
フレンズ会員 1,200円

(本人・前売りのみ)  
— 一般 1,500円

(未就学児の入場はご遠慮ください)

文化の家  
2階舞踊室

チケット発売日

10月 6日(土)フレンズ会員

10月13日(土)一般



コンサート終了後はティーパーティーの  
会場に早変わり。お菓子やサンドイッチを  
食べながら、出演者や観客の皆さんが、お  
しゃべりの花を咲かせます。  
また、パーティーの最後には、抽選によ  
り、すてきなプレゼントが当たりますので  
チケットはなくさないでくださいね。



### 夢見心地のひとときを

今池ガスホールでランチタイムコ  
ンサートを視察してきましたの  
ですが、着物を着て、笠置シズ子、ジョ  
ニィへの伝言、映画音楽、クラシッ  
クなどを歌われ、夢見心地の時を  
過ごしてきました。

鈴のような歌声、透き通った歌  
声、妖艶な歌声など、書ききれな  
いくらいの多彩な歌声でした。

専属のピアニスト木須康一さんの  
演奏が、背景シーンを支えていま  
した。

(事業部 渡辺)





舞台芸術系 コンテンポラリーダンス 豊永洵子さん



「thuberosa」  
choreodraphy/dance: Junko Toyonaga  
Costume: Koori Tamura (HAReGI)  
Photo: Yoshiki Shigematsu

ダンスとの出会い

私のダンスとの出会いは、幼少時にさかのぼります。当時、安室ちゃん、TRFなどの影響で、ダンスの人気も上昇し、将来の夢はバックダンサーなどと考えていたが、幼いながらに「誰かの後ろで踊るだけ」というダンスに疑問を持っていました。また当時は、ダンスだけで生きていくという道も知りませんでした。

一つ目の転機

そんな私の一つ目の転機は筑波大学へ入学したことです。ダンス部で部活動に明け暮れる中、个性的な仲間に出会い「自分は何かができるのか」を考え続ける日々を過ごしました。また大学院では、「コンテンポラリーダンス」を研究テーマにし、ここで出会った人たちの影響

もあり「なんとかしてダンスに生きていきたい」と思うようになりました。

二つ目の転機

二つ目の転機は大学卒業間際に参加した海外でのダンス研修でした。「価値観も何もかもが全く違うところへ！」とあまり計画性もなくイスラエルに行きました。何よりこの機会によってダンスの自由さや面白さ、そして踊ることの喜びを再認識したことは、今も踊り続ける原動力となっています。

創造スタッフ活動

東京での活動を経て3年前に愛知に移住し翌年から文化の家の創造スタッフ活動を行っています。日本の劇場において「ダンス」自体まだまだ開拓中のジャンルであり、特に「コンテンポラリーダンス」というダンスジャンルは、なじみがないものです。「見たことがない」「難しい」と言われることが多いのが現実です。私の最近の活動の中には、自らが日常の場に入り込んでダンスを目撃してもらおう事や、他ジャンルとコラボレーションを行うなど、ダンス普及活動的なことも行っています。

コンテンポラリーダンス

コンテンポラリーダンスは、動きの型による分類ではなく、その時代、振付家の考え方や身体を媒体に「作品」として表現されます。その中で踊ることを通して、観客の皆様と言葉にはならない「何か」を共有できることが魅力のひとつです。

これからの抱負の一つとして、芸術をもっと身近に感じてもらう、文化の家でいろいろなダンスを観ていただければいいなと思っています。

12月14日(金)文化の家風のホールにてダンス公演も企画しています。



クラシックで笑顔を創る

スギテツがやってきました!

7月28日、フランス企画『ゆかいな音楽会』は異例のコースをとる台風12号が迫りくる中、小中学生をはじめとする幅広い年齢層の方々を迎え、森のホールで開かれました。

最初の曲は「剣のずいずいずころばし」、ハチャトリアンの「剣の舞」と「ずいずいずころばし」を融合した軽快な音楽でスタート。杉浦哲郎さん(ピアノ)、岡田鉄平さん(バイオリン)お二人独自の視点でアレンジした曲が次々演奏され客席からはブラボの声掛けや温かい拍手と笑いにつまれました。

中でも「犬のおまわりさんの運命」は、左手に犬の指人形を付けたままの演奏に最前列の子供たちは立ち上がりかぶりつき、「ボッケリーニと笑点のメヌエット」では、座布団と座布団運びまで登場しました。

「長久手ストリングスハーモニー」とのコラボレーションでは、火曜サスペンス劇場のテーマソングを入れた「美しき青きドナウ河のさざなみ殺人事件」の迫力のある演奏の中でパトカー、救急車のサイレンも登場。

「ラデツキー行進曲」では、会場の手拍子がスギテツの演奏と一体化、盛り上がりは最高潮に。余韻を残したまま楽しかったコンサートは無事終了しました。



# 旧山口村道の今昔

松本 洋

長久手の東のはずれに一本の廃道がある。中世からの古道「山口村道」といった。名は瀬戸の山口に由来する。上郷地区の大草を東に進み北東に延びる山道がそれである。東山を経てサンショ洞を横切り峠を越えて旧山口村へ通じる村道であつたらしい。いまも利用されているのはサンショ洞を左に見てすぐの檜の大木のところまででその先は深い藪に阻まれ通行できない。土地の古老の言に「ボクが子どもの頃もここから先は通れなかった。」と言ふところからも廃道となつたのは昭和の初め頃であらうか。

かつて大草地区では旧暦6月16日の天王祭りとともに虫送りの行事もおこなわれたらしい。松明をかざした村人の行列はこの道を村境の石亀堂まで行って人形送りをしたという。また近代の一時期、山口神社の郷社祭りに北熊、大草、前熊のオマントの隊列もここを往来した。また道沿いでは亜炭の採掘も行われるなど人々の生活に欠かせない道であつたが東に新道が整備されたことにもないその役割を終えたのである。

ここに一つ面白い余話がある。今から30年ほど前この藪の廃道を北へバイクで走りぬけた猛者がいたらしい。驚くほかにいさすがに今はもう無理であろう。いつの世も冒険者はいるものである。

秋日和、稲刈りの憩いに暫し古道に佇み往時を偲んだ。エッサイホーサイ、エッサイホーサイ、藪の奥から警固祭りの掛け声につづいて村人たちの虫送りの騒めきが仄かに聞こえたような気がした。幾百年の歳月がここに

ついでながら、この辺りは少しづつだが里山が蘇りつつあるという。自然との共生こそ豊かな心をはぐくむ揺籃ではなからうか。次世代に継承したい一風景である。

参考文献 小林元著

「長久手の地名」

## 読者の投稿で初めて知った「旧山口村道」。いったいどんな所？

晴天に恵まれた某日、ボランティアの方に特別に案内していただき、旧山口村道に向けて編集部員が出発しました。



← サンショ洞 ↑ 蓮池



蓮池やサンショ洞を通り過ぎると、いよいよ旧山口村道の入り口です。先が見えないうっそうとした藪の中に、一歩足を踏み入れてみると道らしきものがあり、有志の方々の努力により、かろうじて歩けるようになっていました。



瀬戸に向かって分け入っていく部員

### 長久手と亜炭

長久手の地下60mくらいまでの地層は、約500万年前から堆積されてきた亜炭(石炭の一種)の宝庫でした。安価だったため需要が多く、大正2年当時、長湫の東では2人にひとりが亜炭関係の仕事についていました。エネルギーが石油に移行するにつれ亜炭鉱は閉山し、多くの坑道が空洞のまま残されました。

昔は両手を広げたくらいの幅と推測され、馬も通ったそうです。村道沿いは今でも亜炭坑道のあとがあり、危険なためやむなく引き返しました。

その後、長久手市郷土資料室を訪れ、亜炭の歴史や坑道の模型などを見て、当時の人々の暮らしと山口村道との結びつきを改めて感じながら、探索を終えました。

# おすすめ公演!

文化の家 岡田百合香さんのチェックポイント!

スティーヴン・イッサーリス

チェロリサイタル

11月4日 (日)

開演 15:00

開場 14:30

森のホール

全席指定

コニー・シー (ピアノ)

キッズ☆コンサート

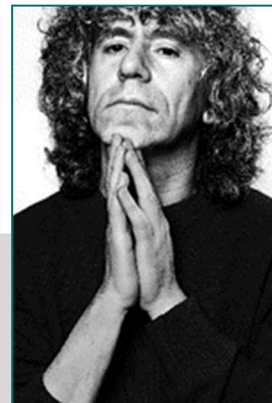
11月3日 (土・祝)

開演 15:00

開場 14:30

風のホール

全席自由



**世** 界最高峰のチェリスト・イッサーリスが巻き起こす音楽のタイムスリップ!

あのユーモラスで多才な世界的チェリスト、イッサーリスが帰ってくる! プルースト作「失われた時を求めて」の時代にタイムスリップして、音楽で“ベル・エポック(良き時代のパリ)”へと誘(いざな)います。また、前日にはキッズプログラムも実施します。子ども向けの音楽本も執筆している彼のハートフルなコンサートもお見逃しなく!

たらず  
午後の佇み

~サクソ&ピアノ~

11月15日(木) 風のホール

開演 14:00 / 開場 13:30

出演 石川貴憲・丸尾祐嗣  
坂井彰太郎・平光広太郎



「クラシック VS ジャズ」をテーマに、音色の違い、奏法の違い、共通するところなどを比較しながら、サクソ、ピアノの真実に迫ります!

ワンコインでお楽しみいただけます!

ひとりごと

クラシックをベースに、童謡、TVドラマの主題歌、動物の鳴き声、爆音にパトカーのサイレン、果ては叫び声まで奏でるバイオリンの超絶技法。

音楽は観て聴いて楽しめる生演奏に限るなあ。(ま)

ふるさとの記憶



ほっと  
すぺーす

長久手市在住 O

ボケのおじさんとは、小学生の時に知り合いました。毎日、近所の公園で弟たちと遊び回っていたところ、同じく毎日、白い小さな犬を散歩させているおじさんと仲良くなったのでした。

その犬の名前は、「ボケ」ということ、「ボケ」は花の名前であること、その花はともきれいだということなどを教えてくれました。毎日顔を合わせているうちに、おじさんは近所の小さくすり屋さんだということも分かりました。

いつしか私たちは公園に行かなくなり、おじさんを見かけることもなくなり、先日、実家の近くを通った際、おじさんのくすり屋さんのシャッターが降りていました。

姉弟揃ってシラミにかかったとき、おじさんのくすり屋さんでシャンプーを買ったこと。そのとき、なぜかバジルの苗をもらったこと。親子ともに植物との相性が悪く、すぐに枯らせてしまったこと。ボケは少し痩せていて、目やにがよく出ていたこと。ボケの背中を撫でたときの、温かい感触。いろんなことが一気に思い出されました。ボケのおじさんは、いまでもときどき私たちが家族の話題に上がります。

「ボケのおじさん、元気かなあ」

ふるさとと聞いて思い出すのは、そんな温かな記憶です。